



## 機械の性能を生かした商品開発に強み

佐藤 務・伸和ウール（株）社長



### 会社概要

- 業務内容 婦人服地、ニット生地、シャツ地
- 設 立 1970年(昭和45年)5月
- 最新年商 約9億円
- 本社・工場住所 尾西市明地字東下城104-1
- 従 業 員 18名

1964年（昭和39年）に現社長の佐藤さんが尾西市で個人創業し、1970年に株式会社を設立、1977年（昭和52年）に現在地に本社社屋を建設した。佐藤さんの持論は「当たり前のことだが、メーカーは企画・意匠力と斬新な設備が一体となって成り立つ」で、設立以来、高い付加価値素材の生産に努めてきた。

まず1979年に丸編機を導入（現11台）して「織物とニットのコーディネート」企画を軌道に乗せ、ついで1987年には「織物の製織性の良し悪しは準備工程で大きく左右される」と整経工場を建設、整経した糸を外注工場に渡して、品質の万全を期した。

設備投資は平成に入っても続けられ、1997年（平成8年）には織物の内製化のため革新織機レピア8台（現12台）を導入すると共に、織物生産工程でネックである綜こう差し工程を合理化するためドロイングマシン「デルタ200」を導入、合わせて整経機、準備機各2台を増設した。デルタ200は織機50台に対応できる機能を持ち、多品種少量生産やQR(クイックレスポンス)に強力な威力を発揮している。

最新決算のシーズン比率は秋冬、春夏が半々で、尾州産地同業他社に比べて春夏比率が高い。商品企画コンセプトは「中国や成長著しいインドなどではできない商品」で、その一例が「高い技法を必要とする24枚ドビー」や「織り工程で自在に緯糸打ち込み本数を変化させた織物」、「二重織り」そして「経糸のテンション管理による波状織物」（商標アルシュ）などだ。



こうした素材にはアメリカからの引き合いも殺到している。「高い技法の商品は綿100%でもメートル当たり10ドル以上」という。大半の商品にはストレッチ機能を付与して特徴を出している。

佐藤さんは「マーケットニーズを把握しつつ、当社だけの素材開発でオンリーワンを目指す」と「機械の性能を生かした素材開発」という方針の具現化のため、現場に入り込む日々だ。